



伊場 哲也 議員



AI(人工知能)の活用について

問 質問に応じて自然な文章を作成する対話型AI「チャットGPT」の活用について市と教育委員会の見解を伺う。

答 現在、市の行政事務の処理には使用していない。個人情報、正確性等の問題に注意して使用すれば事務の効率化に有効である。教育委員会では、小・中学校の情報モラル教育を活用しながら、チャットGPTを含め、児童・生徒が適切にインターネット環境等を活用できるよう、国の動向を注視しながら取り組んでいく。

沖縄交流事業・茅野市児童交流事業の促進について

問 4年ぶりの実施で新たに取り入れた点や変更した点は。

答 沖縄交流の参加児童数を学校規模に応じて募集。事前説明会に保護者も参加してもらい、理解を深め、問い合わせをなくし学校の負担を軽減。茅野市との交

流事業は、学校の輪番制を廃止し、チラシにより募集を行い学校の負担をなくした。姉妹都市の一層の親善を図りたい。

商工業の振興について

問 既存企業への支援について、支援状況と雇用の増加を図る取り組みを伺う。

答 中小企業金融対策事業、制度融資利子補給事業を通して、市内の中小企業の振興を図っている。旭市企業誘致及び雇用の促進に関する条例に基づき、固定資産税の免除や雇用等に奨励金を交付し、既存企業の設備投資の促進や雇用の創出を図っている。

市長のまちづくりの方針について

問 東総地域の発展・観光等における広域連携の推進について、進捗状況の評価を伺う。

答 観光物産協会が、樺の海をテーマにトークショー等を開催。千葉県サイクリング協会が旭市を発着点とし観光スポットを巡る事業を開催。今年2月、人口減少の緩和・地域内経済循環の実現等を図ることを目的として、十九里地城市町村連携チームを設立。よりよいまちづくりや課題解決につながると期待している。

災害に強く環境のよい旭市に

問 線状降水帯による豪雨や台風被害が予測された場合、避難所開設はどのくらい前に決定、周知されるのか。

答 避難指示のタイミングが深夜、あるいは明け方等と見込まれるときは、状況が悪化する前に避難所開設を決め、防災行政無線等を通じて開設の案内をする。6月の大雨ではピーク時の概ね半日前に開設の案内を行った。

問 再生可能エネルギーの主力電源化に期待される次世代のペロブスカイト太陽電池が実用化された際は、先進的事例として設置はできないか。

答 研究成果を見据えつつ、太陽光発電設備を設置する際には検討していきたいと考えている。

問 大規模災害時は、トイレ環境に様々な課題がある。移動式のトイレトレーラーの導入はできないか。



伊藤 春美 議員



答 災害時のトイレ対策として携帯型や簡易型のトイレの備蓄がある。導入ではなく事業者との協定締結での運用の可能性は考えられる。

市民の暮らしを詐欺被害から守る

問 電話de詐欺の県内の年齢別の被害人数は。

答 令和5年の4月末現在で、80歳以上237人、70歳代125人、60歳代93人、50歳代9人、40歳以下6人、合計470人。



問 詐欺被害の9割以上が65歳以上の高齢者。希望者に対し、電話に装着する詐欺対策用の簡易型自動録音機「録音チュー」の無料配布はできないか。

答 現在のところ予定はないが、今後の被害防止を行う上で検討していきたい。